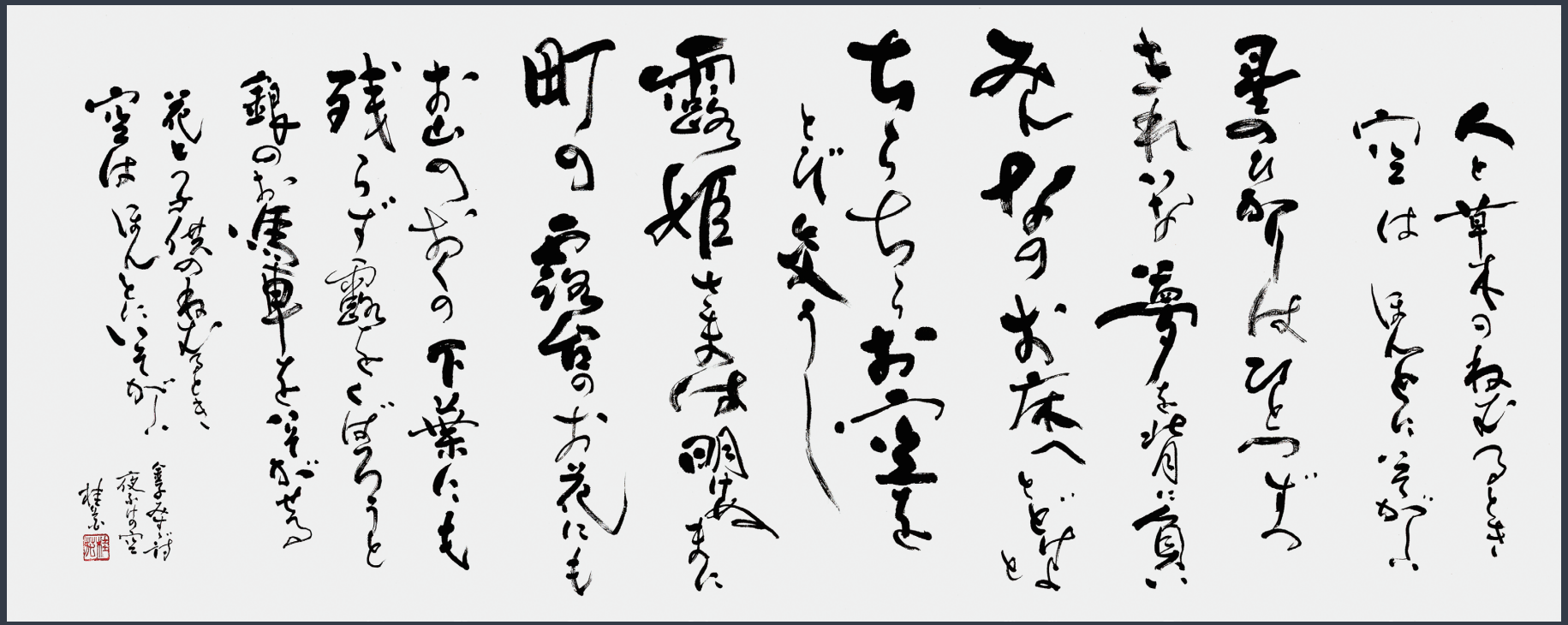
只埜桂花（ただのけいか）


人と草木のねむるとき
宵は ほんとにそれで
星のひかりはひとつずつ
きれいな夢を背負い
みんなのお床へとどけよと
ちらちらお空をとび交うし
露姫さまは明日もまた
町の露台のお花にも
お山のおくの下葉にも
残らず露をくばろうと
銀のお馬車をそろえる
花と子供のねむるとき
宵はほんとにそれで
夜半の宵
桂花